

各種教育プログラムや検定試験に関する検討事項（案）

各種教育プログラムや検定試験は、分野、受講者数・受検者数などが多様である。さらに、e-ラーニングの発展とともに、各種教育プログラムや検定試験の実施の方法も多様化してきており、これに伴い、学習者の学習スタイルも劇的に変化してきている。

そこで、以下の点について、このような現在の状況を踏まえて、検討する必要があるのではないか。

- ・ ノンフォーマル教育やインフォーマル教育（注）と位置付けられる各種教育プログラム（社会通信教育（含．文部科学省認定社会通信教育）、カルチャーセンター、外国語会話教室その他各種の講座）に期待される意義・機能はどのようなものか。
- ・ 学習の結果、身についた知識や技能の習得度を一定の基準に照らして測定する検定試験に期待される意義・機能はどのようなものか。
- ・ これらの各種教育プログラムや検定試験について、質の保証の必要性についてどのように考えるか。また、学習機会提供者、検定事業者、学習者、その他の第三者及び行政は、それぞれどのような役割を担うべきか。

※ 注：日本生涯教育学会「生涯学習研究 e 事典」渋谷英章によると、

- ・ ノンフォーマル教育は「学校教育（フォーマルエデュケーション）の枠組みの外で、特定の集団に対して一定の様式の学習を用意する、組織化され、体系化された（この点でインフォーマルエデュケーションと区別される）教育活動を指す。」
- ・ インフォーマル教育は「あらゆる人々が、日常的経験や環境との触れ合いから、知識、技術、態度、識見を獲得し蓄積する、生涯にわたる過程。組織的、体系的教育ではなく、習俗的、無意図的な教育機能である。具体的には、家庭、職場、遊びの場で学ぶ、家族や友人の手本や態度から学ぶ、ラジオの聴取、映画・テレビの視聴を通じて学ぶなどがあげられる。」

とされている。